

Events etc. info.

発泡スチロール協会 記者発表会開催

去る7月12日、霞山会館（東京・千代田区）において、発泡スチロール協会（JEPSA）の定例記者発表会が行われた。司会進行役には、廣瀬康弘同広報部長が担い、出席者の紹介及び配布資料等の確認後、開会し、まず新任の柏原正人同協会長（積水化成製品工業株式会社・代表取締役社長）は「4月14日から16日に発生しました熊本地震におきまして多くの方が被災されました。また、私ども会員企業も被災されました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。被災された多くの方が避難所に避難されました。その際、JEPSAといたしましては、地震発生直後に各地区の避難所にEPSボードを救援物資としてご提供させていただきました。現在地震発生から3ヶ月になるうとしておりますけれども、現地での避難所では縮小、移動が始まっております。その際廃棄されるEPSボードの回収、リサイクル処理を確実にするということが私どもにとって非常に大切なこととございます。被災地の自治体と連携いたしまして、EPSボードの回収、リサイクル処理を実施して参ります」と挨拶の冒頭で述べた。また、2015年発泡スチロールの業界動向については、農林水産容器分野で、輸出用EPS箱の出荷量が13年ぶりに前年対比の110%台に、家電等の緩衝材分野は微増、建材分野では微減となり、総国内出荷は対前年比600t減の14万となった。

過去最高のリサイクル率90.2%

明るいニュースの1つに、2015年の発泡スチロールリサイクル率が挙げられる。90.2%という初めて90%の大台に乗った（対前年比+0.9ポイント）ことは特筆に値する。今後もこのような高いリサイクル率を維持して、循環型社会への貢献に寄与して参りたいと同会長は強調した。また、2016年の活動計画とその要旨については、シロクマキャンペーンなど恒例となった行事の継続や、EPSの需要が伸びている輸出



左より、片岡副会長、柏原会長、武田専務理事

等の関連団体に容器等のPRはさることながら、欠かすことのできないプレスの方々の活動へのご理解とご支援を賜りたいとメディアへの配慮も怠らない。続いて武田導弘専務理事より詳細な活動報告並びに活動計画がグラフや写真とともに配布資料に基づき行われた。1991年設立の「発泡スチロール再資源化協会」が2010年に「発泡スチロール協会」として再スタートしてから、リサイクル中心の活動から、発泡スチロール全般の広報に活動をシフトしている。当日の記者発表では、同会長も触れたように今秋の豊洲市場開場に伴い、前向きな情報発信がされたが、先日の移転延期決定で、当業界でもその影響は必至で、またどのような計画変更がなされるのか動向を見守りたい。しかし、今年度の「漁業・農業分野の需要回復と輸出需要」や「震災復興・オリンピック事業の需要」に注力という基本方針は揺るぎなきものと思われる。そして、「COP21パリ協定」に関しても、EPSの断熱性能を日本は元より、AMEPSでもPRするなど、環境負荷低減、資源消費抑制をして社会貢献することに重ねて言及した。